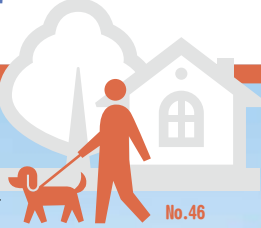


ふるさと

和光さんぽ

「ふるさと和光さんぽ」は、身近だけれど実はよくわかっていない「和光」を再発見してみようというコーナーです。



No.46



時空を超えて
川越街道
をゆく①

和光市民なら知っておきたい
川越街道の真実

現在の「川越街道」といえば「国道254号」をさす。昭和38年(1963年)に制定され、起点は東京都文京区、終点は長野県松本市だが、「川越街道」とよばれるのは東京都豊島区「池袋六ツ又交差点」から埼玉県川越市「新宿町北交差点」まで
 「旧川越街道」と呼ばれる埼玉県道109号新座和光線は国道254号と平行する。江戸時代の「中山道・川越街道」の起点は江戸・日本橋で、「中山道」との分岐は「板橋宿平尾追分」。終点は「川越・江戸町・西大手門」(現在の大手町・川越市役所付近)。伊能忠敬「大日本沿海輿地全図」によると実測、10里34町33間半(約43km)だった



1 白子富士がそびえる「白子熊野神社」(上)と胎内巡りができる「神瀧山清龍寺不動院」(下)。隣接しているのでどちらも訪れたい



川越街道
(国道254号)

旧川越街道
(県道109号)

新旧川越街道の分岐点
「東埼橋交差点」

和光市を東から西へ横切る「川越街道」は、起源が室町時代といわれる歴史ある街道です。

長禄元年(1457年)扇谷上杉家の家臣・太田道灌によって江戸城(当時の千代田城)と川越城(当時の河越城)が築かれました。その際、防備を固めるため部分的にあつた古道を繋いで二つの城を結ぶ道を作ったのが川越街道の前身と考えられています。後に豊島泰経が太田道灌に対抗するため、練馬城・石神井城によってこの道を遮断したために両者は激しく対立したという記録も残っています。

戦国時代は防衛線として重要な役割を果たした道が、参勤交代や商用の街道となったのは江戸時代初期。寛永16年(1639年)に川越藩主になった松平信綱と嫡男の松平輝綱が、中山道の脇往還として整備し、「川越街道」を完成させました。

現在は「川越街道」と名のつく道が二つあります。一つは「国道254号」です。もう一つは新座市と和光市を結ぶ「県道109号」で、一般的には「旧川越街道」と呼ばれています。が、実は江戸期の街道ではありません。

当時、日本橋を出発して川越に向かう旅人は「中山道」の板橋宿平尾追分(現・板橋3丁目交差点付近)から「川越街道」に入り、石神井川を渡り、下練馬村(現・練馬区)の宿場を経て白子村(現・和光市)に入りました。

現在の旧道は東京都と埼玉県との境界である白子川の「東埼橋」を渡りますが、江戸時代の街道は「白子橋」を渡って「白子宿」に入つたのです。「白子橋」を過ぎて突き当たった通りは現在、「白子宿通り」と呼ばれています。

「白子宿通り」と「県道109号」との交差点の角にある「白子郵便局」付近はかつての中宿の本陣跡で、近くには清流がいつも湧き出ている「白子熊野神社」(写真①)や「神瀧山清龍寺不動院」(写真②)など見どころがたくさんあります。江戸時代へタイムスリップした気分が散策を楽しんでみてはいかがでしょうか!

次号では「大坂通り」から「浅久保通り」を経て次の「膝折宿」へ続く街道沿いを紹介します。

年齢別サークル0歳児 第3期募集

みなみ・しらこ子育て支援センター、しもにいくらミニ子育て支援センター

【申込】9月14日(水)必着。往復はがきに

①参加する保護者の氏名(フリガナ) ②子どもの氏名(フリガナ) ③子どもの性別 ④子どもの生年月日 ⑤住所 ⑥電話番号、返信欄に住所・氏名を明記し、各センターへ窓口又は郵送で。

- みなみ子育て支援センター
0歳児サークル係 〒351-0104 南2-3-3 2階
- しらこ子育て支援センター
0歳児サークル係 〒351-0101 白子3-29-10 3階
- しもにいくらミニ子育て支援センター
しもにいくら保育園内「ハミング」係 〒351-0111 下新倉1-2-25

*定員を超えた場合、9月16日(金)10:00から各会場で公開抽選を行います。結果は返信はがきでお知らせします。

*市内支援センターの平成23年度年齢別0歳児サークルに参加した人、現在参加中の人は応募できません。

*みなみ子育て支援センターのサークルは応募者の月齢によってクラスを決定します。希望の時間に添えない場合がありますので、ご了承ください。

場所	対象	期間	時間	定員	費用
みなみ子育て支援センター	平成22年4月2日~23年8月28日生まれ	10月28日~12月16日の各金曜日(全8回)	月齢別で3クラス 10:00~10:40 11:20~12:00 13:30~14:10	35組	無料
しらこ子育て支援センター	平成22年10月6日~23年8月6日生まれ	10月6日~12月8日の各木曜日(全8回)	11:00~11:45	20組	500円
しもにいくらミニ子育て支援センター	生後2か月~12か月	火曜コース 10月11日~12月13日 水曜コース 10月12日~12月14日 (各コース全8回)	9:45~10:45	各コース8組	無料

和光市の 第6回
歴史・民俗を
たずねて

和光市指定文化財
ささら獅子舞

ささら獅子舞は、和光市内で唯一の獅子舞で、毎年下新倉氷川神社に奉納されている市指定無形民俗文化財です。

その起源は、室町時代の元龜3年(1572)に始まったと伝えられており、現在まで伝承されている郷土芸能です。厄除け・豊年祝い・安全祈願など、下新倉の当時の生活の中から生まれ、強い信仰によって支えられてきました。

ささら獅子舞は大獅子・中獅子・雌獅子の3つの獅子頭を使い、太鼓をたたき、水引幕をひるがえして舞います。「ささら」というのは、丸竹の先を細かくさいた楽器の名前で、花笠の役の人が鳴らします。

昭和11年(1936)から戦争をはさんで昭和39年(1964)まで休止されていましたが、地元青年会(ささら獅子舞保存会)に受け継がれて復活し、古式通りに毎年奉納されています。

そして今年からは、女性のみで構成される「華笛」が30年振りに結成されています。ささら獅子舞は、今年は10月16日(日)14時から下新倉氷川神社で開催される奉納祭りで、華笛や踊り子により奉納されます。また、11月13日(日)に開催される市民まつりでも演奏を行います。

和光市に伝わるささら獅子舞を、この両日は是非ご見学ください。

問 生涯学習課 ☎424-9119



▲奉納祭りの「ささら獅子舞」

「華笛」はつぴの裏面▶